会　議　録

1　会議名

令和８年度第５回安塚区地域協議会

2 議題（すべて公開）

（１）報告事項

・安塚区地域協議会委員の辞職について

・市民の消火栓使用について

（２）自主的審議事項について

・自主的審議事項について

（３）協議事項

・安塚区地域協議会だよりの発行について

（４）その他

・地域協議会会長会議について

・次回開催日の決定

3 開催日時

令和８年８月１８日（火）午後５時３０分から午後７時１０分まで

4 開催場所

安塚コミュニティプラザ ３階 大会議室

5 傍聴人の数

０人

6 非公開の理由

―

7 出席した者（傍聴人を除く）

・委　員：秋山委員、池田（正）委員、和泉委員、岩崎委員、新保副会長、滝沢委員、中村委員、松野委員、山岸委員、横尾委員、吉野会長

・危機管理課：松永副課長

・事務局：安塚区総合事務所 今井所長、井部次長、保高班長、本山会計年度任用職員

８　発言の内容

【吉野会長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

本日の会議録は、内規により会長が対応することを報告。

【報告事項（１）安塚区地域協議会委員の辞職について】

■ 説明

事務局が、池田康雄委員から令和８年７月２２日に辞職願の提出があり、市長までの決裁を経て、７月２８日付で正式に辞職となったことを報告した。

■ 質疑応答

・質問／意見：特になし。

【報告事項（２）市民の消火栓使用について】

■ 説明

危機管理課松永副課長が資料№.１により説明。

■ 質疑応答

・質問／意見：町内会などで消火器を揃える時に、市からの助成金などはあるか。

→回答：財産の一部になるとの考えから、消火器購入に係る補助等はない。

・質問／意見：消火活動を行う人員については、例えば５人一組で行ってほしいとか、具体的な人数や交通誘導を含めた役割分担を資料に明記したほうがよいのではないか。また、消火に当たる人の年齢や消防団経験の有無について、条件整備をする考えはないか。年一回の訓練では心もとないのではないか。

→回答：ホースを消火栓に接続する人、筒先を操作する人、消火栓の放水を調整する人など、最低３人程度は必要と考えているが、火災現場の状況によって必要人数は異なるため、一律の人数等は定めていない。年齢や経験等の条件に関しても、地域によって異なるため、地域でよく話し合っていただきたいと考えている。

・質問／意見：既設の消防資機材が使用できない場合、地域で新たに資機材を用意しなければならないが、市で一回くらいは面倒を見てくれても良いのではないか。

→回答：消防資機材の調達及び管理は地域が行うこととしており、市が資機材を支給するなどの考えはない。地域で対応可能な範囲を協議しながら取り組んでほしい。高齢化等により対応できない地域にまで、無理して消火活動をしてほしいということではない。

・質問/意見：５、６年前から、一般市民は消火栓を使ってはいけないということになったかと思う。それまでは消防隊が到着するまでに時間が掛かるため、地元の住民が消火栓を使って消火活動を行っていた。資機材も消火栓のそばに一式あったものだが、今はない。その資機材はどうなったのか。

→回答：合併前上越市では消火栓に付随する格納箱の設置や補助を行っていなかったため、市町村合併の協議において各町村で設置したものは町内会に譲渡し、合併後は町内会で管理することになった。このため、今はない格納箱等については、町内会等により撤去されたのではないか。

・質問／意見：私の町内会では年１回、消防団が目視で確認しているが、実際に消火栓を開けて放水をしてはいないため、訓練の際にでも点検しなければならない。不具合があった場合は町内会で負担して取り替えることになるのか。

→回答：そのとおりである。

・質問／意見：確認だが、市では現在、配置されている町内会管理の資機材については把握していないということか。

→回答：そのとおりである。市は基本的に、消防団の資機材を整備・管理している。

・質問／意見：各地の消火栓の中には、見た目は問題なくても錆びなどにより使用できないものがあるのではないか。そのような消火栓は、誰が管理するのか。

→回答：消火栓本体は市が管理しているため、錆びや水漏れなどの不具合があれば、総合事務所または危機管理課へ連絡してほしい。連絡を受け次第、市で対応する。

（危機管理課退席）

【自主的審議事項について（１）自主的審議事項について】

■ 説明

・吉野会長から、５月の会議の際に配布した『自主的審議事項のテーマ選定に係る整理表』に添って進めるので、将来の安塚がどうあってほしいかを各自一言ずつ発言してほしいとの説明があった。

■ 意見交換（地域の将来像、方向性について）

・意見：人口の流出を如何にして食い止めるかが一番に大切である。インフラの整備や交通の利便性向上は不可欠ではあるが、その前にまず、地域住民の絆や繋がりが欠かせない。現在、安塚に住んでいる人が安心して暮らせる地域づくりを重視すべきではないか。

・意見：はっきり言うと何も思いつかない。人口も流出し切ってしまって、今、残っている人のみが、ずっとここに居続けるのではないか。若い人も子どももいない。私の町内では、盆踊りを計画しても若い人は集まらないので、今年が最後ということになった。仮に娯楽的なことを計画しても、人が集まらない状況。どんな打開策があるか思いつかない。

・意見：安塚区全体を見ても高齢化が進み、どうやってみんなで助け合っていくかを考えるのも難しくなっている。隣の集落まで行って助け合える余裕もない。若い人が残ってもらえる方法を考えなければならないが、なかなか難しい。

・質問：６月からこの整理票に基づいて審議しているが、会長はどこまで検討作業が進んでいると思うか。

→回答：緒に就いたところで、これからだと思っている。個人的な考えはあるが、皆さんに披露するまでには至っていない。

・意見：せっかく作っていただいた整理票なので、項目ごとに意見を聞いた方が良い。今の進め方だと、また元に戻ってしまうように感じる。

皆さんが言っているように、盆踊りや道普請、塞ノ神など、集落からなくなってしまいがちな行事がたくさんあるが、残したい気持ちがあるなら集落を跨いで合同で実施するのも一つの案ではないか。実施する場所が遠くなる不便もあるが、やり方次第で行事の存続は可能だと思う。

今、ここに住んでいる人が楽しく過ごせることが大事だ。そこを重点的に考えながら案を作れればよいと思う。

・意見：地域協議会の委員も若い人がいない。若い人が集まって意見を出し合えればよい意見も出るかと思うが、みんな自分の生活で精いっぱいだ。その時期を終えた世代は自分自身の先が見えてしまい、地域の将来を考えようにも考えられない。若い人の意見を収集できる方策が必要である。

・意見：高齢化や人口減少は地域で解決できるものではなくて、解決するには国全体で対策する必要がある問題だ。地域自治として高齢化や人口減少の問題を解決するのは不可能。地域としてはそれらを受け入れたうえで、何ができるか考えるべきである。

現状では、住民が少なくなり過ぎて外部の人を呼び込むことも手遅れである。しかし一方で、研修で老人介護施設を見学する機会があったのだが、そこには、それなりに若い人が働いている印象だ。施設では、働く人を確保することも課題だと説明されていて、政策的に対応できるなら、若い人もある程度は住んで、働いてくれるのではないか。大きな施設を建てて、そこに働いてくれる若い層を獲得するような政策もあるかと思っている。また、くわどり市民の森の維持のように、自然環境の維持や農地保全、ＮＰＯ等との連携によって若い人たちの仕事に繋げられればよいのではないか。若い人による新たな発想による仕組みが作れるとよい。

・意見：今回、市長が多世代交流施設を各区に設置しようとしている。それがどういう内容になるかはまだ分からないが、安塚区に整備される時には安塚区地域協議会として、いろいろな意見や要望を上げていくべきではないか。

・意見：消防団員との懇談の場を設けて、意見を聞くのはどうか。

・意見：安塚区よりも大島区へ移住する人が多い気がする。移住してきた人に、なぜ移住してきたのか、何に魅力に感じたのかを聞いてみてはどうか。

・意見：安塚の人口が飛躍的に増加することは考えにくい。それならば、人口減少を前提にしてどう考えるかが重要である。どんなに小さくなっても持続可能で、皆が安心して暮らせる、しかも次の世代にきちんと手渡せる形での安塚の将来を考えた時、やすづか学園を拠点としたインクルーシブ教育の先進地を目指すべきである。そのことにより、大学や学生たちなどの関係人口が増加し、将来の昼間人口や移住家族の増加に繋がればよいと思っている。

・質問：ＮＰＯは１０年後を見据えたビジョンを作って、それを基に活動しているではないか。

→回答：ＮＰＯが主体になって安塚区のビジョンを作るということだったが、できたのはＮＰＯ自身の生き残りのためのビジョンだった。

しかし現在、市が求めているのは安塚の将来像を住民全体で描くことだと思う。ビジョンを地域協議会単独で作るのか、住民や各種団体と作るのか、市ははっきりと言わない。

・意見：地域ビジョンの作成に当たり、市は１０年後の地域に何を求めているのか、明確に示してほしい。

→回答：今のところ市から明確な回答はないため、今後、市に確認していきたい。

→説明：特段、皆さんより新しい情報を持っている訳ではないが、地域ビジョンは協働・共創まちづくり補助金の活用のためだけに作成するものではなく、担当課はその地域ビジョンに基づき、目標に向かって補助事業を進めるために作ってほしいと考えているものと思う。

市全体の方向性としては市の総合計画にかなり細かく書いてあるので、ビジョンもそれらとの整合を取ってもよいし、安塚区の独自のものを作ってもよい。どのような想いがあるのかをビジョンという形にしてほしいのだと私は理解している。

・意見：令和４年度に実施されたアンケート調査でも、人口減少や高齢化、交流の場がない、活気がないなどの回答が目立った。特に高齢者は今後の生活に不安を感じ、生き甲斐を見つけることが難しくなっているように思う。地域住民が集い、交流できる施設やコミュニティ拠点があれば、高齢者の孤立防止や世代間交流に繋がるのではないか。

・意見：税金を半額か１／３にしてくれたら、人は残るのかも知れない。車税、住民税も半額にしたり、空き家を安く提供したりすれば、残ってくれるのではないか。なにしろ市内に比べて、雪の処理に掛かる費用が馬鹿にできない。その負担を軽減する方法として、税金を軽減してもらえればよいと思う。

■ まとめ

・地域ビジョンの策定に向けて、人口減少や高齢化を前提としながら、安塚区の強みや特色を生かした将来像を引き続き検討することとした。

・次回以降は、安塚区の将来を支える具体的な柱や重点テーマを整理しながら、議論を深めていくこととした。

【協議事項：安塚区地域協議会だよりの発行について】

■ 説明

・事務局が、安塚区地域協議会だより（案）について資料№.２により説明。

・地域協議会開催日と町内会への文書発送日との兼ね合いで、今回の地域協議会で内容を決定してほしい。

・おもて面には、地域の未来について共に考えていくことを住民に呼びかける会長の挨拶と、「安心して住み続けられる安塚区」を目指して自主的審議事項の新たなテーマの検討を始めたことを掲載した。

・裏面にはこれまで地域協議会で審議してきた、旧安塚中学校の利活用に関する検討経過や決定内容を掲載した。区内にも、旧安塚中学校が今後、どのように

使われるのかを知らない人がいると考え、地域協議会が関与している部分以外の内容もいくらか記述することにした。

・また、地域協議会委員の辞職を報告し、感謝の意を掲載した。

・会長及び編集委員と事務局で協議して案を作成したので、意見があれば修正する。字数の都合、可能な形の中での修正となる。

■ 質疑応答

・質問／意見：広報紙に地域協議会委員の欠員補充に関する募集記事を掲載することはできないか。

→回答：内部検討の段階だが、地域協議会だよりとは別に総合事務所だよりなど地域の広報媒体を活用した周知を検討している。現在、欠員補充のための手続きや募集方法などは、制度上の確認をしながら進めている。

→説明：地域協議会だよりは地域協議会の活動を周知するために発行するもので、編集委員長も地域協議会長である。

一方、委員の募集は市が行うものなので、地域協議会だよりではなく総合事務所だよりに掲載するべきと考えている。

・質問／意見：仮に募集を行った場合、複数の応募者があった際はどのように選考するのか。

→回答：選挙は行わず、推薦などで情報を得た候補者に対し、順次、意向確認を行うなどの方法で、市が適任者を選定することを想定している。

・質問／意見：欠員補充は市が候補者を選定するだけではなく、より広く人材を求める仕組みが必要ではないか。

→回答：条例では市長が補欠委員を指名する仕組みとなっているため、その規定に基づいて対応することになるが、地域からの推薦や情報提供を受けながら候補者選定を進めていきたい。

■ 協議結果

・安塚区地域協議会だより（案）の文面修正を求める意見はなく、原案どおり了承された。

【その他（１）地域協議会会長会議について】

■ 説明

・会長から地域協議会会長会議の概要説明と、市の新たな地域自治制度及び地域独自の予算に代わる制度に関して、５つの項目で質問や要望を発言してきたと報告があった。

・第１に、政策転換に至った経緯や理由を明確に示してほしいと求めた。

・第２に、地域ビジョンについて、策定期限や地域協議会に求める内容を明確にするとともに、評価方法や事業への反映方法も示すべきであると要望した。

・第３に、地域ビジョンが未策定の段階で新制度を運用することの妥当性を問い、令和９年度をビジョン策定及び制度周知期間とし、令和１０年度から本格実施する案を提案した。

・第４に、地域ビジョンを市の総合計画や各種行政計画、予算編成等にどのように位置付けるのかを明確にしてほしいと要望した。

・第５に、地域協議会委員の職務や責任が増大する中で無報酬のままとなっていることから、公的な職責に見合った処遇として、報酬制度の見直しを求めた。

・これらのことに対して会議では明確な回答は得られず、８月２５日に予定されている市長記者会見で制度や補助金の全体像が公表される予定であるとの説明であった。

・また、地域協議会委員の報酬については、引き続き議論を求めていきたいとの考えが示された。委員の報酬に関する提案について、他の会長からの反応は薄かった。

■ 質疑応答

・質問／意見：会長会議のトップは誰か。

→回答：トップは市長である。

・質問／意見：市長は出席していたか。

→回答：市長も副市長も出席しておらず、総合政策部の石井部長が出席していた。

【その他（２）次回の地域協議会の開催日時について】

・次回の安塚区地域協議会は、令和８年９月１５日午後６時３０分から開催することに決定した。

【その他（３）市からの連絡事項】

・事務局が、やすづか学園３０周年記念事業、令和８年第５回上越市議会９月定例会の日程などについて、情報提供した。

問い合わせ先：安塚区総合事務所総務・地域振興グループ

℡：025-592-2003（内線 23）

E-mail：yasuzuka-ku@city.joetsu.lg.jp

別添の会議資料も併せてご覧ください。